

上田市立清明小学校

社会科 6 学年

単元名「明治の国づくりを進めた人々」

授業者 有賀 圭太郎（上田市立清明小学校）

指導者 高野 昌生（東信教育事務所指導主事）

1 本時の主眼

明治維新で世の中がどのように変わっていったのかについて疑問に思い、年表にある様々な改革に関わっている大久保利通が世の中を変化させたことに関係していると予想を持った子どもたちが、大久保利通が改革を行った目的や改革の関係を考える活動を通して、命をかけて行った改革でどのような国に変えようとしたのかについてグループごとにフィグジャムにまとめ、大久保利通が日本を欧米の国々に負けないような国にしようとしたことがわかる。

2 視聴覚機器の役割

使用端末：大型テレビ・Chromebook

使用アプリ等

①フィグジャム

付箋・フロー図作成機能を用いて、歴史的な事象と事象に関わる出来事を関連付けながら情報を整理することができた。また、シートの制限がないので、単元を通して1枚のシートにまとめられ、前時とのつながりも意識することができた。

②NHK for school「歴史にドキリ」

クリップ機能で番組を部分的に視聴することで、大きな転換を迎えた日本について、新政府が目指した国づくりとそれに携わった大久保利通の思いを知ることができ、追究していく手がかりになった。

3 授業の概要

単元の学習問題

明治維新ではどのような人々がどのように世の中を変えていったのだろうか。

大久保利通が外国に行き、何を感じたのかについての動画と、日本の工場制手工業とイギリスの機械工場の写真をみて、日本の発展の必要性を感じ取る。

学習問題

3つの改革をして、日本をどう発展させようとしたのだろうか。

3つの改革それぞれの意味や関係をもとに、大久保の改革にかける思いに向かう。

学習課題

3つの改革の動機や改革同士の関係から、どう発展させようとしたのか考えよう。

改革の目的を調べてグループごとフィグジャムに

まとめ、どのような国に変えようとしたのか考える。

自分の班や他の班のフィグジャムを元に自分なりにどのような国に変えようとしたのか考える。



まとめ

大久保利通は産業を発展させて強くして、外国に追いつこうとした。

フィグジャムを利用して内容を整理し、まとめを自身のノートへ記述。授業の振り返りは Google Forms を利用した。

4 研究会の要点

- ・導入で動画や絵図（当時の日英の工場の違い）を提示したことによって、追究～まとめの場面で外国と比較して考えている児童がいたので、大久保の思いを捉えるのに効果的だった。
- ・子どもたちがインターネットで情報を収集する際に、情報の信憑性をどう確認していくかに悩む。教科書や資料集で情報をまとめてからインターネットを利用するなどの工夫が必要。
- ・グループごとのフィグジャムが協働追究の場となっていた。グループで練り合う視点を示すことで、対話がさらに生まれてくるのではないかと。

5 指導者の助言

- ・子どもたちが学びを深めていくために、ICTをどう活用したらよいかという視点で、研究継続が大事。
- ・「社会的事象の見方・考え方」には、比較・分類したり総合したり、関連付けたりする方法が示されているが、本時ではその中の、「総合・関連付け」に関わって、フィグジャムが効果的に使われていた。さらに、「それぞれの改革がどうつながっているのか」という事もフィグジャムを用いて考えられるとよい。
- ・殖産興業には、軍隊とも関連がある。徴兵令というものも入れて考えさせてほしかった。
- ・ICTに限らず、資料や教科書等も、子どもたちが「～を知るため（考えるため）に、○○を使いたい」と目的意識を持って活用することが大切になる。

6 今後の課題

- ・本時では、「教師 — 子」の関わりの中で、改革や歴史的な事象についての理解を深めていったが、そのやり取りを子どもたち同士で行えるようなグループ学習を仕組んでいきたい。
- ・インターネット検索で得た情報をどう選定し、活用するか。情報モラルに関する態度も養っていきたい。